

CONFERENCE REPORT

第18回うつ病学会/ 第21回認知療法・認知行動療法学会 [合同開催]

会期：2021年7月8日～10日（ハイブリッド形式：ライブ配信＋一部オンデマンド配信）

今村 弥生 杏林大学医学部精神神経科学教室助教
坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室講師
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室教授

コロナ禍の幕開け

2021年7月8日～10日、パシフィコ横浜を会場に、第18回日本うつ病学会総会／第21回日本認知療法・認知行動療法学会が同時開催されました。

本大会は今なお続く、COVID-19のパンデミックが世界を覆う状況を鑑み、精神科領域では前人未踏のハイブリッド開催を実施することになりました。

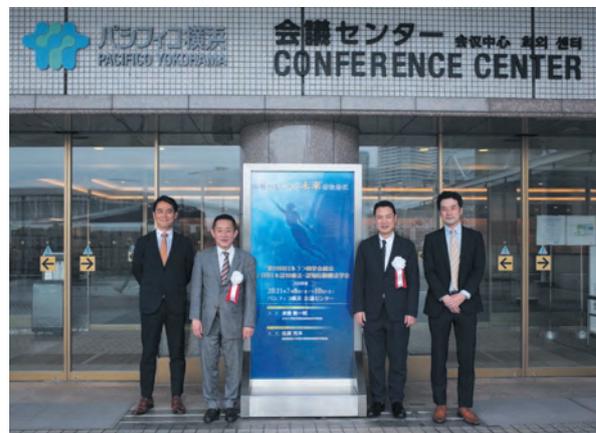
世の中全体が、先のみえない鬱屈とした空気の中こそ、うつと不安に向き合う本大会を実施する意義があると思いつつも、はたして首尾よく進められるのか？という不安が企画側には最後までつきまといました。ついに迎えた開催当日は、まん延防止法下でありつつ、行動制限に若干の緩和がある霧の晴れ間のような時期でしたが、開催と同時に第4回目の緊急事態宣言発令の報道があるなかの開幕となりました。

ハイブリッド開催の夜明け

本大会で採用したハイブリッド形式の学会では、現地・リモート、どちらからでも参加可能というコンセプトです。会場に来られないリモート参加を選んだ場合、学会の様子が録画されたものを後で見るオンデマンド形式が精神科領域では多いなか、本大会では、会場に設置された複数のカメラから、ちょうどテレビの生放送のように、リアルタイムで映し出されリモート参加者の

PCで中継されました。質問も会場参加者はその場から、リモート参加者もチャットか、発言権を得て口頭で行うことが可能で、参加者の距離を超えた双方向の議論が展開されました。カメラの配置にも工夫がなされていて、会場や聴衆の様子や、質問者の目線など、いくつかの角度から映し出され、遠隔地からPCで参加していても、臨場感をもって伝わったと思っています。また、学術集会ホームページの動きも、想像よりスムーズで、通信技術の進歩が感じられました。

一方、会場は嚴重に感染を予防するため、ホールの椅子も両手を伸ばしてもあたらない感覚で設置され、会場には体温測定器を複数設置し、参加者は検温結果をシールで名札に貼って行動し、どんどんシールが積



写真、学会会場入口にて